

通常学級に在籍する軽度発達障害生徒への支援
- 特別支援教育コーディネーターがリードするチーム支援 -

曾山 和彦 武田 篤

本研究は、通常学級に在籍し、軽度発達障害が疑われる中学校1年男子に対し、外部専門家、教職員、保護者がチームとして支援を行った実践である。対象生徒の問題行動は、「授業中に手遊びや独り言が多い」、「手順を説明しても同じことを何度も聞きに来る」等であり、教師や級友から不満の声が挙がっていた。特別支援教育コーディネーターがチームの核となって関係者間の連絡調整を図り、個別の指導計画を作成するとともに、「学級づくり」の視点による級友への働きかけを行った結果、対象生徒の問題行動は軽減された。本研究から、通常学級に在籍する軽度発達障害生徒への支援として、特別支援教育コーディネーターがリードするチーム支援と「学級づくり」の視点の重要性が指摘された。

文 献

- 1) 岸田優代：どんな子に特別な支援が必要なのか．月森久江・朝日滋也・岸田優代編：教室で行う特別支援教育．図書文化，20-21，2003
- 2) 文部科学省：今後の特別支援教育の在り方について（最終報告），2003
- 3) 文部科学省：小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案），2004
- 4) 緒方明子：特別支援教育コーディネーターの役割．特殊教育学研究，43(1)：73-76，2005
- 5) 真城知己：特別な教育的ニーズ論 その基礎と応用．文理閣，2003
- 6) 杉山登志郎：アスペルガー症候群と高機能自閉症の理解とサポート．学習研究社 2002
- 7) 柘植雅義：特別支援教育の今後の在り方～LD・ADHD・高機能自閉症等を支えるシステム～療育の窓，133：1-5，2005
- 8) 山本和郎：コミュニティ心理学～地域臨床の理論と実践～．東京大学出版会，1986

* 本論文は秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学第 61 集に掲載されたものであり、著作権が秋田大学に帰属します。そのため、ここでは論文の概要と参考文献のみ紹介します。